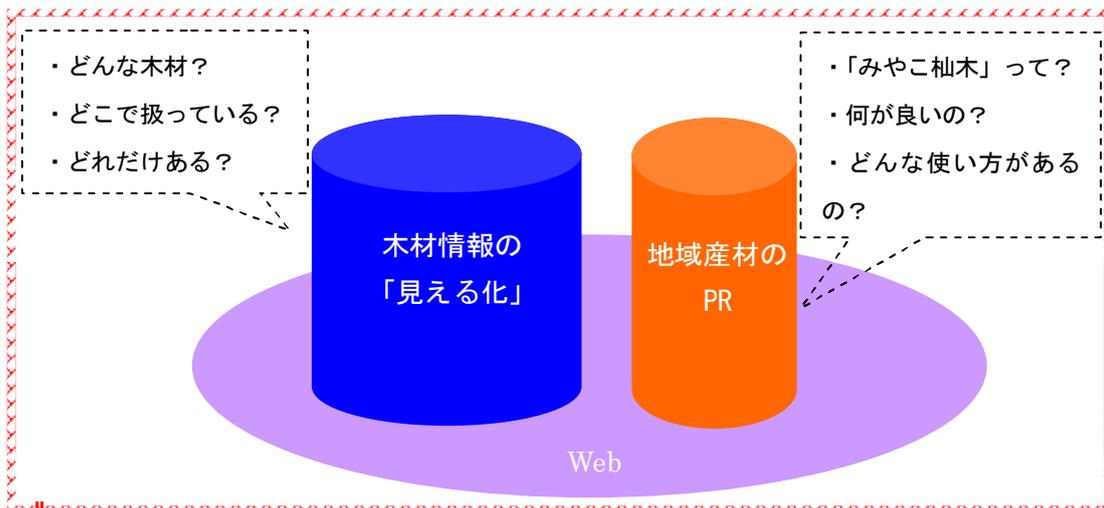


II. 地域産材ストック情報システムの検討状況について

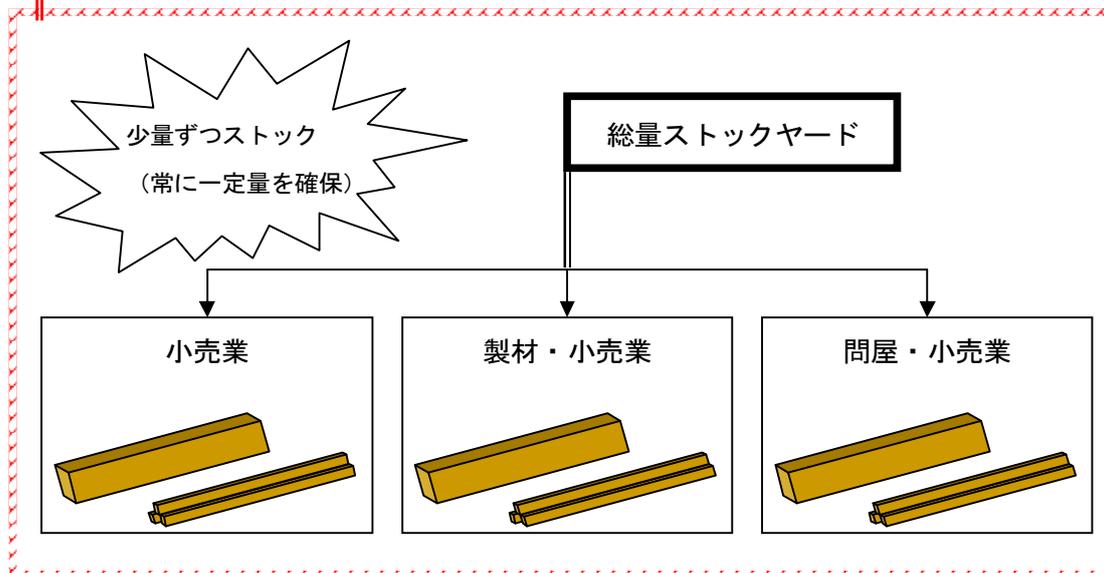
1. 地域産材ストック情報システムの検討方向性について

概要

昨年度の木材流通関係者への調査結果から、価格差、品質、供給量等といった課題が浮き彫りになってきた中で、「問い合わせ時に『取り扱っている』、『取り扱える』という回答がされる体制」の整備（木材情報の「見える化」）を進めることで、地域産材の利用拡大に向けた各課題に対して改善の効果が見込めるという方向性が出てきた。このため、この木材情報の「見える化」について、まずは試験的に取り組んでいくことが必要である。



■相互に補完しあう両輪体制の試験構築■…知らない→知りたい→知っている→…。



2. 「京都らしい」、「京都らしさ」の木の使い方とは？

昨年度の調査結果から、「京都らしい」木材の使い方として、「木造軸組（在来）工法で家を建てること」、「伝統的な木造建築物を保存すること」（建築士、施工業者）の回答が高く、木材が使われることが「京都らしさ」につながる一つであると示唆されている。

これまで自然と人が共生してきた歴史の中で、特に京都では、いわゆる借景や、大通りから三山等の緑を見ることができるようなまちづくり、京町家等の文化を通じて、「木」に触れる環境が育まれてきている。それらから考えられる「京都らしさ」の一つとして、「木の本来の良さを楽しむ」という行動が「京都らしい」という考え方ができる。

1. 銘木を楽しむ。
2. 木材（樹種）を使い分けることを楽しむ。
3. 木材の「様の美」を楽しむ。
4. 木造建築物が醸し出す雰囲気を楽しむ。
5. 木材の付加価値に京都らしさ 等

これらは、それぞれの主観に拠るところが大きく、明確な定義がない。しかし、大きな方向性としては大別がないと考えられるので、少しずつ具体化できるように、今後も議論を重ねていく必要がある。